

経済発展に偏ることなく、社会や環境にも目を向け、世界を持続させること。また、すべての国や世代を超えたすべての人々が、誰一人として取り残されずに尊重される社会を、SDGsは目指しています。

SDGsの概念が生まれる以前から、世界の国々は「経済・社会・環境」それぞれが抱える諸課題に取り組んできました。当然ながら、目標設定はバラバラで、足並みをそろえることは困難です。そこで、諸課題を解決するため、達成すべき共通の目標を設けたところに、SDGsの大きな意義があります。

SDGsが目指すものとは

続いて「開発（ディベロップメント）」という言葉は「モノを作る」ことを意味しますが「発展する」「進展する」というニュアンスも含んでいます。すべての人が安心して、自分の能力を十分に発揮しながら、満足して暮らせることを指します。



サステナブル ディベロップメント ゴールズ  
Sustainable Development Goals = SDGs

世界が目指すSDGsとは

テレビやラジオ、新聞、雑誌、ウェブ上に至るあらゆる媒体で、毎日のようにSDGsという言葉が発信されています。もはや当たり前の存在となった4文字の言葉について、皆さんはどこまでご存じでしょうか。

SDGsとは「持続可能な開発目標」を指す言葉です。貧困や不平等、人種差別、気候変動など、世界が直面する諸課題を根本的に解決するための共通目標として、平成27年9月開催の国連サミットで採択されました。

持続可能な開発とは

何を意味するのか

はじめに「持続可能な（サステナブル）」という言葉には「維持できる」「耐えうる」「持ちこたえられる」などの意味があります。将来世代のため、限りある資源を守り育てながら「経済・社会・環境」3つの要素が緊密にバランスを保ち、持続していくことを指

SDGsの達成に必要なこととは

SDGsは、世界的な共通目標であることに加え「飢餓をゼロに」「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」など、壮大な目標が並んでいるため、私たちの生活とは、直接的に関係のないものだと感じてしまう方も多くいることでしょう。

しかし、SDGsは国や大企業など、大きな枠組みに限定されるものではありません。地球に住む私たち一人一人の行動こそ重要視されています。

確かに、たった一人が意識高く行動を起こしたとしても、社会に及ぼす影響は、微々たるものかもしれません。しかし、行動の輪が拡大していけば、大きなうねりとなって社会に変革が起きる可能性も大いにあります。

まずはSDGsを正しく理解し、日常生活の中で、無理なくできることから始めてみませんか。次のページからは、町の皆さんが実践するSDGsの取り組みをご紹介します。ぜひ、参考してみてください。

町のSDGsへの取り組み事例 1

「知る」機会、「関わる」機会の創出

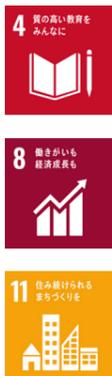
町と多様に関わる人々(関係人口)を増やし、地域の新たな担い手を育成するとともに、地域に活力を創出します。

【主要事業】

- ・チームビルディングツールズ事業
- ・ふるさとアンバサダー事業
- ・山村留学事業 など



7月30日に発足した  
チームビルディング推進協議会



町のSDGsへの取り組み事例 2

子育て支援の充実

働きながら子育てしやすい環境整備に努めるとともに、子育ての不安や負担に寄り添えるよう相談・支援体制を強化します。

【主要事業】

- ・子育て世代包括支援センターの機能強化
- ・子育て支援ボランティアの充実
- ・多子世帯支援事業の拡充



びわのかげ子育て支援センター



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標は、令和12年(2030年)を達成限度に設定しており、上記の17の目標(ゴール)と169の指標(ターゲット)で構成されています。SDGsに関する詳細は、国連広報センターホームページをご確認ください。



国連広報センター



酒井 富美さん（小塩）

民宿田吾作を営む酒井さんは、日常発生する生ごみ（野菜、果物、魚介など）の堆肥化を実践しています。生ごみの焼却量を減らすことができれば、二酸化炭素の排出量も減少する。ホームセンターやネットでも、堆肥化に必要な菌床などが手に入るので、皆さんも堆肥づくりに挑戦してみませんか。



平野 理恵子さん（大町）

びわのかげ子育て支援センターに務める平野さんは、毎日の子育てで大忙し。長男の陽真くん、次男の颯真くんのために作る食事にも、SDGsが深く関わります。お母さんの愛情たっぷりの食事を、好き嫌いを残さずに食べれば、食品ロスを防ぐことができる。各ご家庭の食卓でも、食品ロスの削減に取り組んでみましょう。



大山 佳仁さん（湯ノ花）

湯花里苑の事務長を務める大山さんが記した「優しさ・ゆたかり・寄り添って」という言葉は、運営母体である（医）仁嘉会が提供するサービスの基本姿勢を表したものの。利用者とそのご家族、地域の皆さん、従事する職員は大きな家族であるという意識を持ち、支え合いながら生活していく環境を守り続けていきます。



# まずは気軽に考えてみる できることから実践を！

SDGsと言われても、何から始めればよいのか分からないーそんな声が聞こえてきます。少し視点を変えてみましょう。職場や学校、家庭、地域など、自分が取り組んでいることで、SDGsに関連する要素はありませんか。振り返ってみると、多くの方がすでにSDGsを実践していることに気付くはずですよ。

## 町内にも広がる SDGsの輪

4 地域をぐるりと一周しながら、町の皆さんが実践するSDGsについて、お話をうかがいました。  
今回取材をした皆さんも、最初は「SDGsって何だろう」「SDGsの実践なんてできていないよ」と口をそろえました。それでも、仕事や日常生活などを振り返ると、意外とSDGsとの関わりが

多く見つかるもの。これから実践を考えている皆さんのヒントとなれば幸いです。  
**できることから実践しましょう**  
例えば、ご自宅でくつろいでいるときに周りを見渡してみましよう。  
お母さんや奥さんと、家事や育児を分担すれば「目標5「ジェンダー平等を実現しよう」に向けた第一歩」。  
切れかけの電球を、長持ちするLED電球に交換すれば「目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に向けた第一歩」。  
ニュースを見たら、選挙が始まることを知り、投票所へ足を運んでみる「目標16「平和と公正をすべての人に」に向けた第一歩」。  
手の届く範囲にも、できることはたくさん。SDGs探しを楽しみつつ、気軽にできることから、実践してみましよう。



渡部 兵一さん（古今）

古今区の住民数は、約150人。区長を担う渡部さんは、お年寄りから小さなお子さんまで、元気に生活できるよう地区の運営に奔走中。集落内で困りごとがあれば、ボランティア精神で支え合う。住民のパートナーシップを生かし、集落機能を未来へ維持していくことも、立派なSDGsの一つです。



星 尚子さん（上山口）

南郷地域の「放課後子ども教室」でスタッフとして活動する星さんは、日課として資源ごみの着実な分別を心がけています。また、買い物には、必ずエコバックを持参。山間部や沿岸部にかかわらず、ペットボトルやレジ袋を分別・削減する努力が、マイクロプラスチックによる海洋汚染を改善する一歩になります。



平野 哲也さん（大桃）

南会津地方環境衛生組合の西部衛生センターに所属する平野さんは、収集された「し尿や浄化槽汚泥」の処理を担当。微生物の力を活用し、化学薬品を多量に使用することなく、電力消費も抑えたクリーンな処理を実現しています。「し尿や浄化槽汚泥」は最終的に「水」となり、自然環境に負荷のない形で循環していきます。



星 美和さん（本町）

南会津中学校の教員を務める星さんは、国語を指導する立場として「言葉」を大切に、生徒たちと向き合っています。生徒の言葉に耳を傾け、心に寄り添い、一歩踏み出す勇気を後押しする一。言葉が持つ役割は、実に広範囲に及ぶもの。「心ある言葉」で自分の思いをしっかり伝えられる力を育みたいと考えています。